



こやま
ともやす
山田 友康
市民連合
(55分)

人権尊重のまちづくり条例 制定後の状況は

問 本市でも、インターネット上の人権侵害、個人・法人への誹謗中傷の書き込みに対する削除要請に取り組んでいる。
一方で、根拠のない部落差別などの誹謗中傷を繰り返す街宣車の運行が差別意識をあらわしている。

答 誹謗中傷など差別意識を助長する言動は人権侵害や差別の拡大につながることから、許されるものではない。
引き続き、本市の人権尊重のまちづくり条例に掲げる「差別のない誰もが真に大切にされる社会」の実現に取り組む。



あべ
なおふみ
阿部 直文
市民連合
(60分)

高齢者の免許返納後の 移動支援策の充実は

問 地域ボランティア団体などによる外出支援事業の団体数および利用者数は、
また、今後の事業の方向性は。

答 昨年度の実施団体が10団体、利用者は延べ8557人で前年度と比べると団体数は同じ、

利用者は約200人増加しており、ニーズはあると受け止める。
一方で、活動を支える運転ボランティアの担い手不足が課題となっているため、地域外からのボランティアの募集や、社会福祉法人への協力の働きかけなど、担い手確保に取り組んでいる。高齢者にとって通院や買い物などの外出機会の確保は介護予防にもつながるものであり、引き続き事業が継続できるよう地域と連携し、取り組む。

免許返納



やまだ
ゆみ
山田 由美
市民連合
(60分)

※プレコンセプションケアと ※SRHRは

問 SRHRを踏まえて、どのようにプレコンセプションケアに取り組むのか。

答 今年度、教育委員会と連携し、中学校においてSRHRの理解を前提とした、妊娠・出産を含む、性や健康に関するセミナーを

実施するほか、中高生や大学生などに対してリーフレットを活用して周知する。
また、貧血の検査や骨密度、筋肉量や体脂肪量を測定した結果を基に生活習慣を改善するためのアドバイスを受けることができる参加型の啓発イベントも開催する。
加えて、プレコンセプションケアに関する医師等の専門職による相談窓口も開設するなど、適切な将来の選択に向けた健康管理を支援する。



やまざき
みつなり
八杉 光乗
新政クラブ
(100分)

登下校時の交通安全対策は

問 ①小学校低学年を対象とした交通安全指導の内容及下校時の安全確保の取り組みは。

②通学路の合同点検の取り組み実績と実効性ある取り組みとして継続するための工夫や改善は。

答 ①入学時に交通安全に関する冊子を配付し家庭と連携した交

通安全教育を進めている。交通安全教室では模擬道路を設置し横断歩道や踏切の安全な渡り方を体験を通して学んでいる。下校時は教職員やスクールサポートボランティアの見守り活動や集団下校等、安全な体制づくりを行っている。
②3月末までに約2700カ所の安全対策が完了し、アンケートでは93・3%の箇所が効果があったと評価を得ている。今後、危険箇所の環境整備を着実に進めることに加え、安全教室等を通じて児童生徒が的確に判断し安全に行動できるよう交通安全教育を充実する。

※プレコンセプションケア：性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う取り組み

※SRHR：性と生殖について、一人一人が適切な知識と自己決定権を持ち、自分の意思で必要なヘルスケアを受けることができ、自らの尊厳と健康を守れること